

【授業の到達目標と概要】

授業のテーマ及び到達目標：コミュニティ（自治体、職域など）における国内外の健康・栄養政策の動向を理解し、ポピュレーションを対象とした栄養教育と食環境整備（健康的な食物・食事の提供、関連する適切な情報提供）による地域栄養活動をテーマとする。ターゲット集団の特性をふまえた、コミュニティにおける栄養教育と食環境整備を組み合わせた働きかけの計画・立案・評価の研究または高度な専門性を有する職業人としての能力を修得する。

授業の概要：前半で、日本の健康・栄養政策、食育政策の最新の動向を、講義担当者が政策決定プロセスに関わった経験を踏まえ講義する。次に、地域における栄養教育、食環境整備を推進するうえで必要な知識として、海外の事例をふまえた「根本的なポピュレーションアプローチ」の考え方、その効果を整理した枠組みである「介入のはしご」、効果的な取り組みを考えるための「ソーシャルマーケティング」と行動経済学の「ナッジ」の活用を説明する。毎回、講義内容をふまえたディスカッションを行うので、ディスカッションを通して自分の考えを整理、洗練させていく練習の機会とし、事前準備と復習を行う。最終回では、実践現場での活用に向けて、「介入のはしご」を使った演習、グループディスカッションを行う。

【授業計画】

- ① 食環境の概念：国内外における食環境のとらえ方・概念枠組み、なぜ世界で食環境整備が重視されているのか。
- ② 健康政策と食環境整備：健康日本 21（国民健康づくり運動）における食環境整備の目標、進捗状況、課題など。
- ③ 健康な食事とは：厚生労働省による「健康な食事」の検討と学術団体コンソーシアムによる「健康な食事・食環境」認証制度
- ④ 健康を超えて持続可能な食事と食環境整備：世界における Sustainable Healthy Diet の動向、厚生労働省が 2022 年から開始した施策である「健康的で自然に健康になれる食環境戦略イニシアチブ」の内容と課題
- ⑤ 根本的なポピュレーションアプローチの理論枠組み「介入のはしご」：「介入のはしご」の理解と、それをういた食環境整備の事例の整理
- ⑥ ソーシャルマーケティングと行動経済学のナッジを用いた食環境整備：具体的な事例を学ぶ
- ⑦ 演習：「介入のはしご」を用いた食環境整備の企画と発表、ディスカッション

【授業外学習】

関連する国の基本計画などの資料を事前に熟読しておくこと。

学修内容を、自分の研究課題とつなげ、学校や地域でどのように活用できるかを考え、授業時に発言できるように準備をすること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加態度（25%）、途中のミニレポート（25%）、総合レポート（50%）から総合的に評価

【教科書】

「人間の行動変容に関する基本 - 効果的な栄養教育のための理論とモデル」武見ゆかり、赤松利恵編、医歯薬出版、2022

【参考書】

「日本人の長寿を支える「健康な食事」のあり方検討会」報告書。厚生労働省 2014.

「自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会」報告書。厚生労働省 2021.

【教材】

授業時に配布。

【備考】

この科目は、大学院 BP の科目でもあるので、1，2 回は対面、3～7 回は Teams を用いたオンライン開講。